

動画解説まとめ 41 / 動画・音楽制作

Sunoで曲を作り、 用途に合わせて磨く実践ガイド

Sunoの曲生成を、シンプル・カスタム両モードの実演で整理。歌詞、構成タグ、スタイルの修正、学習用ソングの例から、音楽を作った後の使い道と収益化の考え方でまとめます。

この動画の要点

音楽生成AIのSunoを使い、イメージから曲を作り、歌詞やスタイルを調整する解説です。チャンネルのエンディングを作る実演を通じて、二つの作曲モード、曲の構成タグ、歌詞生成、曖昧なスタイル指示を具体化する機能を整理します。BGM利用、音楽配信、依頼制作の違いと、学習内容を歌にする例も収録。商用利用については動画時点の説明を区別し、生成時のプランと配信先の条件を確認する必要があることを残しています。

01 曲の用途と聴く人を決め、生成した複数の候補を聴き比べる。

02 シンプルモードは曲の説明から、カスタムモードは歌詞とスタイルを分けて指定する。

03 構成タグやスタイルの具体化を使い、聴いた結果に合わせて修正する。

04 制作を代行する価値は、曲を出すだけでなく、用途に合うものを探して選ぶ作業にもある。

05 商用利用の条件は生成時のプランと配信先の両方に関わり、無料での試作と収益化を分けて考える。

資料の使い方

動画の要点を読み返し、紹介した手順を実践するときにお使いください。本文の時刻を押すと、元動画の該当箇所を開けます。

元動画：【超簡単！】才能無しでも音楽で生かされる！？AIで楽しく音楽を作って収益ゲット！「Suno」で音楽を作ってマネタイズする方法徹底解説！【副業】

<https://www.youtube.com/watch?v=athzVdicDZs>

1. 曲を作る前に、使う場面を決める

動画の該当箇所 1:28 / タップして開く

動画はSunoの企業案件で、あべさん自身が以前からチャンネルのエンディングに生成曲を使ってきた経験を交えて解説しています。楽譜が読めない状態でも、チャンネル登録を促す、元気で親しみやすい曲を作りたいという意図を言葉で伝え、候補を比べて採用したと話します。

曲の用途として、動画のBGM、ポッドキャストの始まりや終わり、結婚式や誕生日のオリジナルソング、ゲームやアプリの音楽などを挙げます。また、音楽を作れる人にとっても、イメージを一度音にするデモやアイデア出しに使えるという説明です。

大切なのは、良い曲を抽象的に求めるだけでなく、どこで誰に聴いてもらうかを決めることです。エンディングの例では、カッコいい曲、カフェのような曲なども試した上で、チャンネルに合うものを選んでいきます。自分の好みと、視聴者に届けたい印象が一致するとは限らない点も後半で話しています。

- ・ 用途の例：動画のエンディング、BGM、記念の贈り物、学習用の歌。
- ・ 音楽経験者の用途：イメージ共有用のデモ、作曲のアイデア出し。

2. 登録と、試作・商用利用の条件を分ける

動画の該当箇所 8:03 / タップして開く

動画の初期設定では、Sunoへアクセスし、Googleアカウントでサインインします。最初の登録時に名前や好みの音楽を聞かれることがあると説明し、英語の画面はブラウザの翻訳機能で日本語にする様子も示しています。画面と手順は収録時点のものです。

続いて、曲を生成するためのクレジットを確認します。無料枠で試し、有料プランを検討する流れを紹介していますが、動画のクレジット数、生成可能数、料金を現在の条件としては扱えません。

特に強調するのは、商用利用を考える際の生成時のプランです。動画では無料プランで作った曲は非商用向けで、後から有料へ変更しても、先に無料で作った曲をそのまま商用利用できるわけではないと説明します。商用の曲は、必要なプランの条件を満たした状態で新たに作る、という区別です。

また、曲を配信するサービス側にも条件があるため、Sunoでの扱いだけを確認して終わらないよう述べています。動画中に「権利の心配がない」と強く表現する部分もありますが、本資料は個別の曲や用途の権利確認を済ませたものではありません。

- ・ 試す段階：生成の流れを覚え、好みの方向を探す。
- ・ 公開・収益化する段階：生成時のプラン、楽曲の利用条件、配信先の条件を確認する。
- ・ 現在の料金や規約の判断は、利用する時点の公式案内に照らして行う。

3. シンプルモードで、説明から二つの候補を作る

動画の該当箇所 10:41 / タップして開く

最初の実演では「Create」を開き、曲の説明欄へ用途と雰囲気を入れます。パソコン作業に集中するための音楽で、海辺をイメージする爽やかな曲、という内容です。作成を押すと二つの候補が出て、順に再生して違いを聴いています。

ここでは歌声のある曲が生成され、ボーカルの自然さや二案の印象を比べています。BGMと入力した場合にも、自分が欲しかった内容になっているかは聴いて確かめる必要があります。作成ボタンを押すだけで採用を決めるのではなく、用途との一致を見る工程が入っています。

次に、説明欄の下インスピレーションからタグを加えています。ハードギター、ラップ、メタルという要素を組み合わせ、曲の方向が大きく変わることを実演します。説明文を一から長く書くだけでなく、画面上の候補も使って音楽の方向を指定する方法です。

- ・ 入力する内容：何に使うか、どんな場面や気分をイメージするか。
- ・ 生成後にすること：二案を聴いて、印象と用途が合うかを比べる。
- ・ 追加するもの：ジャンルや楽器などのタグ。

4. カスタムモードで歌詞と曲の展開を指定する

動画の該当箇所 14:21 / タップして開く

カスタムモードに切り替えると、歌詞とスタイルを別々に指定できます。動画では既存のエンディングの歌詞を使い、女性の声、日本語、親しみやすいポップな雰囲気などを設定して、新しい曲を作っています。詳細設定では、歌声や、指定したスタイルの反映度、意外性を増やす項目などにも触れています。

曲の展開を伝える方法として、歌詞欄に構成のタグを入れる実演があります。Introで導入、VerseでAメロに当たる部分、Chorusでサビ、Bridgeで変化を付ける部分を分けています。ピアノから始めたいという指示も入れ、生成後に順番がどう表現されたかを聴いています。

歌詞そのものを作れない場合は、歌詞欄のボタンから曲全体の歌詞を生成する機能を使います。チャンネル登録を案内する歌にしたいと伝えると二案が出て、好みの案を選び、スタイルを指定して曲にしています。

動画では、以前のエンディングをどのモードで作ったかについて、本人の記憶が途中で揺れています。その点を断定する必要はなく、今回の画面で示された二つのモードの使い方を押さえれば、実演の主旨を理解できます。

- ・ 分けて指定するもの：歌詞の内容と、音楽のスタイル。
- ・ 構成の指定例：Intro、Verse、Chorus、Bridge。
- ・ 歌詞もAIに頼む場合：目的を伝える→案を選ぶ→スタイルを付けて生成する。

5. 聴いて直し、曖昧な希望を音楽の指示へ変える

動画の該当箇所 23:10 / タップして開く

エンディングづくりでは、一度出た曲をそのまま採用せず、明るさが足りない、カッコよすぎる、最初から明るくしたい、と感想を言葉にして何度も試しています。結果を聴くことで、自分が何を欲しがっていたかを少しずつ具体化している場面です。

途中で、スタイル欄の指示を具体化するボタンを使います。「最初からとても明るい」といった大まかな希望が、手拍子、テンポのよいギター、ドラムやベース、サビのコーラスなど、音楽の要素を含む説明へ変わります。専門用語を自分で全て知っている必要はなく、希望を伝えた上で具体的な指示へ整える機能を使っています。

その後の曲は、最初から明るい雰囲気になったと本人が評価します。ここでの実用的な流れは、出力を聴く、違う点を言葉にする、指示を具体化する、再び聴く、という往復です。機能名だけを覚えるより、どの段階の困り事に使ったかが参考になります。

- ・ 曖昧な希望：明るく、親しみやすく、最初から元気に。
- ・ 聴いた後の修正：暗く聞こえる、カッコよすぎるなど、違和感を言葉にする。
- ・ 具体化した指示：楽器、リズム、導入やサビの展開へ落とし込む。

6. 自分で使う・配信する・依頼を受けるを分ける

動画の該当箇所 26:12 / タップして開く

マネタイズの方角として、まず自分の動画やコンテンツに使う方法を挙げます。素材を探す手間を減らし、チャンネルの雰囲気を作る活用です。次に、音楽配信サービスへ出す、短い動画に使う音源を提供する、他の制作者へBGMを提供する、仕事として依頼を受けるといった方向を話しています。

これらは同じ曲生成から始まっても、その先の相手や提供の仕方が違います。動画では各配信サービスの登録から収益の受け取りまでを実演しているわけではないため、本資料も配信の全手順にはしていません。

誰でもAIで曲を作れるなら、なぜ他人へ頼むのかという問いには、何度も生成して選ぶ作業を任せたい人や、自分ではなく相手のセンスで選んでほしい人がいる、と答えています。あべさん自身も、視聴者が好みそうな曲を考えるなら、そのチャンネルを日頃よく見ている人に作ってほしい場合があると説明します。

依頼制作でAIを使う場合は、依頼主が認めているかを確認し、禁止されている仕事へ勝手に使わないという話もあります。生成を代行するだけでなく、相手の用途を理解して、候補を比べ、合うものを選ぶ作業が提供内容になっています。

- ・ 自分で使う：動画のBGMやエンディングへ組み込む。
- ・ 配信・提供する：聴かれる場所や使ってもらう相手へ届ける。
- ・ 依頼を受ける：相手の目的に合わせて試作・比較・調整を行う。

7. 学習内容を歌にして、具体的な相手の役に立てる

動画の該当箇所 32:19 / タップして開く

用途を絞る例として、覚えたい内容を歌にする実演があります。語呂合わせや歴史の時代の並びなどを歌詞に入れ、ロックやオーケストラ風の曲へ変えています。さらに、AIへ他の語呂合わせを尋ね、曲の材料を増やしています。

年代や言葉を漢字で入れた際、読み方が意図と違う部分があったため、Geminiでひらがなへ直してから曲にする工夫も出てきます。作った歌が心地よいだけでなく、覚えたい内容が正しく歌われているかを見る必要がある例です。本人も時代の並びに不安があると話しているため、この実演の歌詞を正確な学習資料としてそのまま採用することはできません。

企画としては、中学一年の歴史、特定の受験範囲の英単語など、学習の対象を絞った曲を作る案を挙げています。語呂合わせがなくても、覚えたい単語を歌詞にする方法も示しています。

中心となる考え方は、音楽が作れることを何の役に立てるかです。学習者が覚えるため、動画制作者が雰囲気伝えるためなど、具体的な相手と用途へ結び付けます。学習効果や売上を検証した実績ではなく、実演と企画の提案として読む内容です。

- ・ 同じ内容でもジャンルや声を変えて、聴きやすい曲を探す。
- ・ 読み間違いがある時は、歌詞の表記を見直す。
- ・ 動画化や配信に進む前に、教材として使う内容の正確さを確認する。

実践の進め方

01 用途と曲のイメージを入力する

Createを開き、何に使う曲か、どんな場面や雰囲気になりたいかを説明して生成します。動画では海辺をイメージした爽やかな作業用音楽を試しています。

動画 10:41

02 候補を聴き、タグやモードを選ぶ

出てきた二つの候補を聴き比べます。ジャンルや楽器のタグを加え、歌詞を指定したい場合はカスタムモードへ切り替えます。

動画 14:21

03 歌詞と構成を整える

歌詞を入力するか、歌詞生成の機能で案を作ります。必要に応じてIntro、Verse、Chorus、Bridgeなどで曲の展開を指定します。

動画 17:25

04 スタイルを具体化して作り直す

聴いて感じた違いを言葉にし、スタイル欄の具体化機能も使って楽器や展開の指示へ整えます。再生成した曲を聴いて、用途に合う候補を選びます。

動画 23:10

05 使う場面に合わせて条件を確認する

自分の動画で使う、配信する、依頼へ納品するなどの用途を決めます。動画では、生成時のプラン、配信先の条件、依頼主のAI利用方針を確認する必要があると説明しています。

動画 29:41

AIへの相談例

編集部が作成した活用例です。動画内の発言をそのまま書き起こしたものではありません。

【編集部による活用例。動画内の逐語プロンプトではありません】この資料を根拠に、記載外の補足は区別し、私の状況を質問してから進めることを守ってください。まず曲の用途、聴く人、伝えたい言葉、好きな雰囲気、歌声の要否を質問してください。その回答を、シンプルモード用の曲の説明と、カスタムモード用の歌詞の方針・スタイル・構成案に整理してください。私が曲を聴いた感想を伝えたら、どの指示をどう変えるか一緒に考えてください。学習用の曲なら内容確認が必要な箇所を示し、商用利用や配信条件は最新確認が必要な項目として分けてください。既存曲の歌詞や特徴をそのまま再現する指示は作らないでください。

資料について

- ・ Sunoの企業案件として制作された動画の日本語自動字幕を要約しています。使用画面やモデル、料金・クレジットは動画時点のものです。
- ・ 商用利用に関する説明は動画内の案内です。現在の規約、生成時のプラン、配信先の条件は用途に応じて確認が必要です。
- ・ 曲の出来栄や使いやすさは本人の評価です。音楽配信や受注制作で得た具体的な収益実績を示す動画ではありません。
- ・ 暗記用ソングは制作例です。読み方や並びの正確さ、学習効果は別途確認が必要で、字幕中の歌詞を完成教材として転載していません。